令和８年度第１回調布市スポーツ推進審議会議事録（要旨）

日　時　令和８年１０月６日（火）
午後６時３０分
会　場　調布市教育会館３階
研修室３０１

○スポーツ振興課長　　それでは、令和８年度第１回調布市スポーツ推進審議会を開催させていただきます。

本日の開催に当たりまして、委員10人中、今８人御出席いただいております。Ａ委員が遅れて参加されるということで御連絡をいただいておりますので、御承知おきよろしくお願いいたします。

調布市スポーツ推進審議会条例第７条の規定によりまして、本審議会が成立することを御報告いたします。

本日、御欠席はＢ委員となっております。よろしくお願いします。

それでは、ここから議事の進行を会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○会長　　では、改めまして、こんばんは。またよろしくお願いいたします。

傍聴の方はいらっしゃいますか。では、お願いします。

（傍聴者入室）

○会長　　今日、大きな議題としては２つあります。８時前には終了したいと思っております。

では、配付資料の確認を事務局、よろしくお願いいたします。

○事務局　　配付資料ですが、次第から始まり、委員名簿、今回の議題になります「基本計画に向けた施策の方向性について」、「新たなスポーツ施設再配置に関する検討について」、それに付随する別紙として、市民アンケートの依頼文、市民アンケートの調査票、団体アンケート票という形で資料をお配りしております。不足等ございませんでしょうか。

○会長　　よろしいですか。皆さん、ありますか。――では、大丈夫のようですので、本

日の議題に移りたいと思います。

３番、議題(1)、後期基本計画に向けた施策の方向性についてとあります。では、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

○事務局　　では、そうしましたら、私から後期基本計画に向けた施策の方向性について御説明させていただきます。資料を御覧いただけたらと思います。

２ページ目を御覧いただきまして、まず後期基本計画の位置づけを簡単にお伝えしたいと思っております。

左上にありますように、市の最上位計画というのが調布市総合計画という計画になります。この計画は２階構想になっていまして、三角形にありますように、頂点に基本構想がございまして、令和５年度から12年度の８年間における市が目指すべき将来像や基本方針を定めております。

その下に、枠で囲ってありますが、基本構想を具現化するためにその基本計画が設けられており、そこには前期、後期と４年ずつの進行管理をする仕組みとなっております。前期は令和８年度の今年度で終了することから、翌年度、令和９年度からの後期基本計画の中身を、今年度に市民の方々の意見も伺いながら整理していくこととなっております。

今日は後期基本計画に関して、審議会の中でも御意見をいただけたらという趣旨でお話しさせていただきます。

スポーツ分野に関する施策は、基本構想上では左側の赤枠で囲ってあると思うのですが、基本目標４として、生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ、生き生きと過ごせるまちを将来像として掲げております。それを令和12年度に達成できればというイメージです。その将来像の実現を目指して、基本計画では右側の赤枠内のとおりですが、施策13としてスポーツの取組を位置づけております。

続いて、３、４ページ目では、現在の前期基本計画の具体的な施策13の方向性になります。施策のポイントが真ん中辺りにあると思いますが、大きく４点を意識しながら各種取組を進めているところでございます。

ざっくりお伝えしますと、１点目は、年齢、障害に関わらず、誰もがスポーツに親しむことができる機会を創出していくこと。２点目は、スポーツ施設の利用環境の向上、また、安全で快適な市民のスポーツ環境の整備をしていくこと。３点目が、障害者スポーツの振興を通じた共生社会の充実を図っていくこと。４点目が、ＦＣ東京など様々なスポーツ団体と連携を通した市民スポーツの振興といった４点をポイントとしております。

施策を実現するための基本的取組としましては、３ページ目の13―１と４ページ目の13―２、13―３と、その３本柱に整理しておりまして、その中に各種事業を実際にぶら下げて実施していっているところでございます。

各トピックスについては、大変恐縮ですが、割愛させていただきますので、例示を後ほど御覧いただけたらと思います。

続いて、５ページ目に進ませていただきます。ここから８ページ目までは、スポーツ推進計画のスポーツ施策についてお伝えします。

今し方伝えてきた前期基本計画を、さらに具体的に落とし込んで整理したものがスポーツ推進計画とお考えいただけたらと思います。こちらは令和６年に策定しておりまして、令和６年度から12年度を定めている基本計画の個別計画として位置づけた計画書になります。

後期基本計画は９年度から12年度までの４年間なので、そちらのお尻と合わせた12年度までを、この調布市スポーツ推進計画でも期間とさせていただいております。基本計画と基本的には時間軸がそろっていくということで御理解いただけたらと思います。

続いて、６ページ目を御覧ください。こちらではスポーツ推進計画については、左側の上にありますように、現在のスポーツを取り巻く社会情勢の変化であったり、右側の市のスポーツに関する現況、特徴を把握させていただきまして、そういったところを落とし込んだ上で、下にあります推進計画の策定の視点を設けております。記載のとおりですが、３つの視点を意識しながら、こちらのスポーツ推進計画は策定していったものとなっております。

続いて、７ページ目を御覧いただけたらと思います。７ページ目にありますように、計画内では、将来像を基本構想と同じように掲げておりまして、先ほど２ページ目で触れました基本構想、一番最上位の構想の将来像の記載の内容と一貫性を持たせておりまして、同一のものを掲げております。基本構想上でも、生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ生き生きと過ごせるまちというところを、令和12年度のゴールの将来像として掲げておりますので、こちらの推進計画の中でも、足並みそろえて記載を再掲させていただいているところでございます。

続いて、８ページ目に移ります。こちらは先ほどの６ページでお示しした社会情勢の変化や、市の実態を捉えた上で将来像の実現に向けて、推進計画では３つの基本目標に整理しておりまして、それぞれの成果を、定量的に指標をとりながら進行管理しているところ

でございます。

御覧のとおりですが、基本目標１としてスポーツ活動の推進、２としてスポーツ環境の充実、３としてスポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進ということで指標をとっていますけれども、ゴールになります令和12年度に目標値を定めているのですが、目標によっては既に達成できているものもあれば、まだ未達のものもあるというような状況になっております。

続いて、９ページ目に進んでいただけたらと思うのですけれども、今回本題となりますのは、こちらの９ページの後期基本計画の概要の内容になっていきます。こちらは前期基本計画の流れをくみつつ、12年度までの方向性を定めた、先ほどお伝えしましたスポーツ推進計画との連動性をもちろん図っていく必要性がありますので、そこを図りながら構成を整理したものでございます。

まず左上の施策のねらいを御覧いただきたいのですが、後期基本計画での施策のねらいとしまして、大きく３点のポイントで整理させていただいております。先ほどとも重複するところがあるのですが、１点目が、年齢、障害に関わらず、誰もがスポーツに親しみ楽しめる環境の充実を図っていくこと。２点目が、スポーツを通じた共生社会の充実を図ること。３点目が、トップスポーツチームや大規模スポーツイベント等の地域資源を活用した地域のにぎわいや交流の創出を図ることとなっております。

１、２点目のねらいとしましては、市内にはスポーツを支える担い手として、スポーツ推進委員の方々であったり、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ関係者が様々おりまして、この方々が市民に対して年齢、障害に関わらないスポーツの取組を行っていただいており、そこが共生社会の充実に向けた一役を大変担っていただいているのかなと考えておりますので、そういった視点を施策のねらいとして表現させていただいております。

また、３点目のねらいにつきましては、調布市は、ＦＣ東京であったり、ラグビーのチームであったりとか、ＮＴＴ東日本のバドミントン部であったりとか、様々なトップスポーツチームがございまして、市と連携協定を結んでいたりとか、また、ハード面でも、味の素スタジアムをはじめとした多摩地域の一大スポーツ拠点を、特に西側中心に形成しておりますので、数多くの大型スポーツイベントが開催されている特徴がございます。こういったスポーツ資源に大変恵まれていることから、それらを生かしたにぎわいの創出、交流といった、まちの発展につなげていくことを施策のねらいとして表しております。

このように大きく３点の施策のねらいの視点を持ちつつ、将来像を実現させるために、取組の内容については、その右側にありますように、まちづくり指標の候補であったりとか基本的取組の内容は、スポーツ推進計画に掲載しているものと一致させていただきながら、12年度までの推進計画と後期基本計画の両計画の連動性を高める方向で考えております。なので、まちづくり指標に載っている３つの運動を週に１回以上行っている市民の割合ですとか、基本的取組の13―1、13―２、13―３の文言であったりとか中身は、スポーツ推進計画と一致させていただいていると御理解いただけたらと思います。

また、今後も様々な取組を進めていく中では、今現在も進行しております事業はもちろん進めていくのですけれども、今後の４年間で特に意識していく取組としましては、左下の主な課題等のところにございますが、そういった課題等へのアプローチが考えられるかなと思っております。

どれも対応が必要な案件ではあるのですが、一、二点だけお伝えしますと、例えば１点目の各施設の老朽化対応や施設の再配置、熱中症対策などの環境の整備ですとか、４つ目の黒点にありますように、中学校部活動の地域連携・地域展開に向けた人材バンク機能を含めた運営体制の整備であったりとか、あとは下から２つ目辺り、トップスポーツチームとの連携をにぎわい創出・交流人口の拡大につなげる仕組みづくりなどと、もろもろ課題を解決しながら、また前に進めていく視点が必要であります。

こういった様々な課題へのアプローチが今後４年間には必要になってこようかなと思っておりますので、私からの説明は以上とさせていただくのですけれども、最後の10ページ目のスライドにありますように、本日、各委員の皆様には、今お伝えした９ページの内容が主なのですが、９ページの内容について御意見をいただきたいと思っております。具体的には、後期基本計画の方向性はこんな感じでいいかという辺りとか、それぞれのお立場の中で加えるべき視点とか、こういうことも考えておいたほうがいいのではないかなど、委員さんそれぞれのお立場、視点から全般的に御意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

一旦事務局から以上です。

○会長　　分かりました。ありがとうございました。

今、資料に基づいて説明がありました。最後の９ページ、９枚目のスライドを時間を取って話合いをしたいと思いますけれども、８ページまでで何か確認したい、質問したいことはございますか。前回、ここに関わっている方は、２ページ目の左側のところについて

も、この基本計画をつくる中で討議をした記憶があるかと思います。どうぞ。

○Ｃ委員　　私も去年１回出ただけで、あまりよく分かっていないのですけれども、後期基本計画はもう策定済みで、これ、どのぐらい可変可能なのかと。その辺で今後の議論にも関わると思うのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局　　今御質問いただいたスケジュール感も含めてなのですけれども、後期基本計画は、今年度末に策定が出来上がるのかなと思っておりまして、令和９年度の初めからスタートする４年間の計画になりますので、今現在は、あくまで様々な市民の方々から御意見をいただく期間中というような捉え方で、方向性として、たたきの案として今こちらを出させていただいております。

これに基づいて、行政経営部という企画部門があるのですが、今後そちらのほうで、市民に向けてワークショップをしたりですとか、あとパブリックコメントをとったりですとか、そんなステージに今後移っていきます。

○Ｃ委員　　では、これからまだ変えるというか、いろいろ微調整がこれから行われるということですね。

○事務局　　そうですね。視点としてはまだまだ盛り込んでいけるかなとは思っているのですが、１つお伝えしますと、先ほどお伝えしたようなスポーツ推進計画と連動性を高めたいというところもあるので、９ページ目の右側のまちづくり指標ですとか基本的取組という辺りは、基本的にはこの形でいきたいなとは思っています。ただ、それの前段にある、こういう時代になっているから、こういう視点も考えておいたほうがいいのではないかとか、そういった御指摘をいただけるとありがたいなというお話です。

○会長　　よろしいですかね。２ページ目の右側の一番上のところに赤く囲ってある、後期基本計画４年間と。これに向けて、最後の半年間の詰めですと。今そのような説明の時期にあると捉えていただければと思います。Ｃ委員、よろしいですか。

○Ｃ委員　　はい。

○会長　　ほかはいかがでしょうか。例えば、８ページの右側に成果数値等がありまして、一番右側が令和12年度目標値、ここに３つ示されている中の真ん中については、まだ達していませんけれども、一番上と一番下はもう既に目標値に達している。そのような現状がある。では、真ん中の達していないのは何かというと、左側に基本目標、スポーツ環境の充実がまだ100％に達してない。そのように資料を見取っていただければと思います。

では、９枚目のスライドも含めて、どこでも構いませんので、御質問とか御意見とかあ

りましたら出していください。どうぞ。

○Ｃ委員　　引き続きよろしいでしょうか。週１回以上スポーツをする人の割合が70％。国、東京都全体も含めて調布市はこんなに高いのだなと思いつつ、もう70を達成しているので、令和12年度までこれでよしなのでしょうか。それとも、70というのは、スポーツ庁のスポーツ基本計画の第３期で70というのが示されたので、それを踏襲しているイメージなのでしょうか。ちなみにスポーツ庁は、次、第４期に変わりますので、そこで70の数値はなくなる。今、中間が出ていますが、70はなくなると思われるのですが、この辺は国の計画と合わせるみたいなことはどのようにお考えなのでしょうか。

○会長　　事務局、ありますか。

（Ａ委員　着席）

○事務局　　推進計画の目標値を定めた中では、国の３の計画を参考にということと、東京都のスポーツ推進計画を参考にしながら設定した数値でございます。

これらの成果指標については、推進計画の中でも、この審議会の中で進捗状況を報告していくことになっております。策定した時点で、目標値を今後どうするというところまでは決めておりませんでしたけれども、今後、国の計画が変わったり、東京都も昨年ですか、推進計画改定などをされていて、国、都の状況もいろいろ変わってきておりますので、既に達成している目標値について、例えば見直す余地があると考えております。その辺についても、この審議会で皆さんに御意見をいただきながら、残りの期間をどうするかというところは考えていきたいと思っています。

○Ｃ委員　　ちなみに、国のスポーツの第４期の策定に私も関わっています。ライフコースとかをすごく大切にしていて、働き盛り世代のスポーツ実施率が低いというのが国の全体の課題なので、そこをどう上げていくかというのにかなり焦点が絞られる予定になっております。

あと、男女差をなくすとか、男女別に指標を出していくとか、実施の率だけではなくて、何分やっているかみたいな。もしかすると分も入るのではないかとか、あとは働き盛り世代の人たちで、その地域ではなくて、職場でスポーツのサポートを受けている人を増やそうとかというのが今後目標値に入ってくる、ＫＰＩに入ってくる予定。パブコメも一応終わって、大きく変更はないので、このままいくのではないかなと思っているのです。

調布市はすごく高いですが、例えば世代別とか男女別とかの実施率も、もしかすると出されると、ライフコースだったり、誰もがというのを調布市もすごくうたっているので、

その辺の実施率はもしかすると出されて、低いところがあれば、そこは高めていきましょうみたいな、そういう在り方ももしかしたら後期はあるのではないのかなと、数値が１つなので思いました。

以上です。

○会長　　ありがとうございます。どうぞ。

○事務局　　推進計画の中でも、実は冊子の中に世代別と男女別の実施率については掲載しておりまして、国の傾向と一緒なのですけれども、10代は高い、60代以降も高いですが、20代、30代辺りがなかなか伸びてこないという傾向はやはりあります。

○Ｃ委員　　男女差はあるのですか。

○事務局　　男女差は女性のほうが少し少ない。40代以降は女性のほうが高いです。それよりは前の方といいますか、10代、20代は男性のほうが高いという傾向が出ています。

○Ｃ委員　　では、これからスポーツ実施率を上げるのだったら、特に働き盛り世代全体と若い女性が課題かなという感じで理解しましたけれども、合っていますでしょうか。

○事務局　　はい、まさしく我々も、女性、働き世代の実施率をどのように上げたらいいのかなということを試行錯誤していまして、朝活みたいな取組をやってみたり、あとは女性対象で、子どもと一緒に参加できるスポーツの場をやってみたりしています。国のまとめなども出てきましたら、我々も分析して、施策にどうするかというのは考えていきたいと思います。

○Ｃ委員　　もう出ているので、また情報連携させていただきます。働く場でのスポーツ実施のサポートを国としては推進するというのが今回強く押し出されて、恐らく予算ももう要求されていて、都道府県に予算がばんと下りて、そこから下に下りていくというような仕組みが考えられているはずです。もう出ています。

○会長　　Ｃ委員から質問されたデータについては、これを検討するときに調布市のデータとして示されていますので、見る機会がありましたら、ぜひ御確認ください。国と同じように、高校生、大学生ぐらいまでは部活動とかスポーツクラブの活動が盛ん。高齢者になれば時間的に余裕があって、少し高まっていくる。特に女性の参加が高くなってくる。その辺のところは、同じようなデータが並んでいたという記憶がございます。

○Ｃ委員　　ありがとうございます。

○会長　　ほかはいかがでしょうか。――自分が中学校に勤めていたという関係もあって、部活動のことが大分気になるのです。そこの中にも、主要な課題の４つ目として、部活動

の地域連携・地域展開、それから右の基本的取組の５つ目のスポーツの支え手の育成・支援、部活動のことが書いてあります。

日本中体連の元専務理事という立場で、まだ全国のアンケートを頂いたりします。また、今も調査をしています。完全に地域展開になって、例えば神戸市などもコベカツという名前で言われていますが、完全に拠点校、サッカーをやる人は、放課後ここの学校に来ていください。バレーボールをやる人はここの中学校でやります。そのようなところが増えてきている。長野県なども学校部活は完全に廃止、そういうところも出てきているのです。

聞くところによれば、それにうまく乗れている御家庭とか子どももいる反面、親が送り迎えをしなければいけない。今まで自分の学校でできたのが、拠点校へ行ったがために、とんでもなく遠いところへ親が車で送り迎えしなければいけない。福岡の宗像市などもそのような現実的な強い嘆きをされていましたけれども、そんなところが調布市としてどのようになっていくのか。

私が参考になるなと思ったのは、すぐお隣の稲城市は、学校部活動をそのまま継続するということもはっきりとうたっていらっしゃるのです。あと、熊本市も割と有名にそのような方向性を示している。そういったところがどのような取組になっていくのか。そういった先行するところの資料は使えるかなと思ったりしています。

今、９ページを御覧になっている方が多いと思うのですけれども、後期基本計画の方向性ということで、何かこういうことも入れたらいいのではないかとか、これについてもう少し説明してほしいとか、何かありましたら御発言ください。どうぞ。

○Ｄ委員　　まちづくりの指標候補の、市のスポーツ施設の年間利用者数というところなのですけれども、調布市は大きいスポーツ施設を持っているのは確かなのですが、これは一般の方がふだん利用できるのかというと、なかなか難しいところがあると思うのです。通常使うとなると、総合体育館、それから大町スポーツ施設、あとはほとんど学校の体育館を利用しているわけです。

我々も常時、調和小学校の体育館を利用しているのですけれども、学校活動が中心になっていますので、特に春休み、卒業式から入学式まで全く使えないところで活動しているところは、１か月間丸々できませんというのもありますし、学芸会だとか展覧会だとかだとまた１か月間使えませんとかというのがあるので、その辺は各学校、教育機関とよく調整していただいて、特に調布市はそういうところが主に使っている場所だと思うので、その辺は行政と教育委員会がよく話し合って、少しでも市民の方が使えるような形にしても

らえるとすごくありがたいなとは個人的に思っています。

○会長　　１つ要望的な御意見がありましたから、そういう自分の思っていることをどんどん出していただいて、事務局でまとめて施策に生かしていただければと思います。ほかはいかがですか。どうぞ、Ｅ委員。

○Ｅ委員　　スポーツ協会からの会議に参加させていただいたときに、総合体育館がそろそろ改修工事に入るというお話がおととしぐらいから出ているのですけれども、予算がまだつかないということで、具体的にはいつから工事に入るかということがまだ知らされていなくて、またこの時期になると、来年度の計画を各連盟で立てて体育館に申請しなければいけないのですが、そういう具体的なことが使っている側に、そろそろ総合体育館工事が始まるよみたいなうわさだけがひとり歩きをしていて、正しい情報が伝わってこないので、そういうのが把握できたらいいなと思います。

西調布体育館も、なくなる前に、調布中のほうにできるから、練習できなくなる時期はないですよということは伝わっているのですが、ではいつまで使えて、調布中はいつできるのというのがまだ全く分からない状況なので、そういう正しい情報を使う側に知らせていただけるとうれしいなと思います。

○会長　　御意見に対して、何か事務局から御回答はありますか。

○事務局　　例えば、西調布体育館しかり、総合体育館しかり、多くの一般の方、もしくは団体の方が利用していらっしゃって、そういった年間計画というのは半年以上前に企画して……

○Ｅ委員　　来年度のはこの11月までに出さなくてはいけないので。

○事務局　　というのは、こちらとしても承知しております。一方で、正式な情報としてどこまで出せるかというところは我々も苦慮しながらも、できるだけ利用者の活動に影響がないように、情報はしっかり出していきたいと考えています。

西調布体育館については、機能移転を調布中学校の敷地にするということで、今、実際にプロジェクトを進めています。実際の計画なども公表して進めてはいるのですけれども、行政としても公表するだけだと利用者になかなか伝わらないというところは我々としてもしっかり受け止めながら、スポーツ協会を通じてしっかり行き渡るような努力をしていきたいと思います。

○会長　　よろしいでしょうか。

○Ｅ委員　　はい。

○会長　　一応努力、頑張ってはいますということで。ほかはいかがですか。

○Ｆ委員　　すみません、今のですけれども、基本的に計画どおりに進めていくというスタンスは変わらない、延びる延びないとかは基本的に……

○事務局　　西調布体育館については計画も公表していく中で、我々としては、基本的にはその計画の実現を目指しております。もちろん、いろいろな不確定要素もありますが、その場合は、柔軟に見直しながら、というのが我々のスタンスです。

一方で、やはり利用者もいらっしゃるということで、そういったことがしっかり伝わるようなことはやっていかなければいけないかなということは受け止めております。

○会長　　よろしいですか。

○Ｆ委員　　はい。基本的なあれで進んでいただければ大丈夫です。

調布の基地跡地も、基本的にあの計画どおりに一応進めていくという感じですか。難しいかもしれないですか。

○スポーツ振興課長　　今お示ししている内容で計画どおり進めていくように取り組んでいるという状況であります。先ほど話がありましたけれども、今後また何かあったりして、前後してしまうという可能性はゼロではありませんが、基本的には計画どおり進めていくということで今進めています。

○Ｆ委員　　ありがとうございます。

○会長　　中野サンプラザみたいに、うまく計画どおり行かないところも見聞きしますので。ほかはいかがでしょうか。――私は今までも何回か言ったことがあるのですけれども、施策のねらいの４行目に、地域のにぎわいや交流の創出につなげますというので、例えば味スタの周りの空き地のところをもっと活用すると人が集まるのではないかなと。上野の国立博物館に行くと、いつも上野公園の噴水の周りに人がいっぱいいて、にぎやかです。ああいう風景が毎週のようにあるといいなと思いながら、何か考えることができるといいなと思って発言させてもらいます。

そういう場所、例えば多摩川の土手辺りも、もっと考えていけば、ロサンゼルスの次のオリンピックはオーストラリアのブリスベン、あそこも川沿いのところに公園がいっぱいあって、日曜日などになるとバーベキューだとか、いろいろなスポーツをやっていらっしゃる市民の人たちが多くいます。本当に活用しているなと見てきたことがあるのですけれども、そういうところも参考にされるといいかなと思ったりしています。

Ａ委員、何かございますか。

○Ａ委員　　いや、ちょっと追いつけてないです。また次の議題で。

○会長　　分かりました。ほかにこの９ページ以外でも構いません。何か御発言、ありますか……どうぞ。

○Ｆ委員　　そうしましたら、スポーツを通しての共生社会とあって、前にも言ったかもしれないのですけれども、要はスポーツを通しての障害理解というのはかなりされているなというのは感じているのです。あとは障害のあるない関係なく、私たちもそうなのですけれども、市民の人と一緒の大会を開くとかというようなものがもっとあってもいいのかなと。そこはどうしても中で、障害があるないというところを分けているというか、言葉はちょっと変なのですけれども、そういうところもあるので、できれば一緒に何かをやる機会を多く持ってくると、要は聞くだけの理解というよりは、一緒にやる中での理解というのはかなり広がってくると思うので、例えば知的障害というと、ここでこういうことをしてはいけないのかなと思いながらでも、でも実際にはそうではなかったりとかという気づきというのがあると思うので、入れていただければというか、そういうところもあったほうがいいのかなと。

例えば、市民運動会ではないのですけれども、そこに障害がある人ない人も一緒にやっていくとか、そうする中では、できるようにルールを変えていけばいろいろなことができると思うので、そういったこともあるといいなというのがちょっと感じているところであります。

○会長　　よろしいですか。事務局から何かございますか。

○事務局　　我々もいわゆるインクルーシブスポーツということで、当事者と一緒になってスポーツをする機会はすごく大事だと思っています。市町村ボッチャ大会という、2020レガシーで26市町村が各市の代表を選出して、その代表チームが集まって、みんなで市町村の１位を決めましょうという大会があって、ずっと運営しているのですけれども、それは障害のある方とない方も一緒にやっていて、その予選についてもＤ委員がやっていらっしゃるＳＨＣさんで大会を開いて、私もそこに出たりとか、当事者と一緒にやったりしています。

当事者と一緒にスポーツをやる、という機会は非常に大事だと思っていますので、まずは今やっている要素というのはしっかり残して続けつつ、それはどうやったら広がっていくのかなというのは、引き続き考えていきたいなと思っています。ありがとうございます。

○Ｆ委員　　ボッチャというと、いろいろな市、どこもやるのです。この間、埼玉のほう

に行って、そこでもやはりやったりしていて、もうそろそろボッチャ以外の競技でもやればいいのになと思っているのです（笑声）。例えば、聴覚障害の人たちと卓球もそうですし、そういったこともあるのかなというのはちょっと思っているので、また一緒に考えられればなと思っています。

○会長　　ありがとうございました。パラリンピックのレガシーというのは割と意識があるのですけれども、去年ですか、デフリンピックが終わった後はどんなものなのかなと、いまいち感じないのですが、事務局、何か一言ありますか。

○事務局　　私は昨年までずっとデフリンピックの組織委員会のようなところに出向しておりました。調布市で言うと、デフリンピックに関連して、デフのアスリートに学校へ指導に来ていただくという事業はやっておりまして、その辺りは今も継続して実施しているところではありますので、今後も続けていけたらいいのかなとは思っています。

○会長　　突然に振ってしまって、申し訳ありません。

１つは、マスコミの力にいかに活用するかということと、それから、今ありましたけれども、学校、多くの子どもたちに触れ合っていただくというか、直接指導していただくとか、そういうこともかなり大きな影響力があるかなと思ったりします。ほかにいかがですか。何か御意見はないですか。Ｇ委員は何かございませんか。

○Ｇ委員　　今ずっとお話を伺っていて、スポーツというと、みんながどこかに出かけて、施設に入ってということが中心になっているのですけれども、コロナのときを思い出すと、いろいろなスポーツの世界の方が配信して、自分でできるということをやっているのです。そうすると、自分のうちの中でできるから、それもスポーツとして考えるのであれば、施設がなくてもできるというのを考えると、スポーツしていますという人が増えるような気がするのです。例えば、調布市でスポーツインストラクター、いろいろな種類の人を集めて、月に１回ずつ基礎的な動きとか、自分のうちでできるようなものを配信する。あとは、それがどれぐらい実施されているか、活用されているかというのをどうやって集めるかは全然考えていないのですけれども、そのようにやれば、施設がなくても、運動に参加する人はできるのではないかなという気がします。

○会長　　ありがとうございました。Ｃ委員、どうぞ。

○Ｃ委員　　今のはすばらしい意見だと思っていて、どうしても調布市は味スタのあの辺に施設が集中しているのです。ちなみに、私は東のほうに住んでいる、もちろん調和小はあるのですけれども、私も市民なので、あまり身近でなくて、でも公園とかはあるように

感じていて、例えばいろいろな指導者が調布市にもいらっしゃったりするのであれば、もちろんオンラインでもいいのですが、公園とかでももっと活躍して……。

先ほどにぎわいとおっしゃっていて、それも西に寄ってしまっている気がしていて、もっと調布市全体でスポーツの指導者とか、あと調布市内にも団体さんがたくさんいらっしゃると思うのです。そういう情報をどのくらい集められているのか分からないのですけれども、施設をつくって、そこでスポーツをするだけではないスポーツのありようというのもある。私みたいに平日働いていて、夜も遅くて、土日、そこまでは行けないのだけれども、近くだったら行けるみたいな人がいっぱいいるような気はしています。

調布市だけではなくて、固有名詞を出していいのか、例えばパークランさんとか、いつも日曜日だったか、土曜日だったか、朝、ボランティアさんと一緒にそこに行くと、緩く一緒に歩いたり走ったりできますみたいな、そういう活動を展開されている団体さんもたくさんあるので、そういうところと積極的に調布市としてコラボして、頑張ってくださいみたいな、施設をつくるだけではない在り方みたいなのも、環境とかにぎわいとかスポーツ、13―１、13―２、13―３全部に関わりがあるようなものも、先ほど会長もおっしゃっていましたけれども、にぎわいの創出、もっと何か考えられる要素があるかなと思います。すみません、一市民の意見ですけれども。

○会長　　ありがとうございました。

９ページの右側のまちづくり指標候補の３つ目のところに、スポーツイベント等におけるという「等」が何を表しているのかなと考えています。今、Ｃ委員からありましたし、原っぱとか、要するに広場があって、そこに行けば自由に遊べる。大会とかイベントを用意しなくても、空間があれば、そこで集まった人たちが何か始めると。例えば、そこの広場のリーダー的な人が１人いて、危険なことやっていたら注意すると同時に、いろいろな遊び方を教えてくれる。そんな広場があっても、それこそにぎわいとか交流とか、そういうのがあるのかなと。自分が小さいときの思い出を浮かべながらですけれども、そんなこともあってもいいのかなと感じたりしています。

ほかはいかがですか。ここは言いっ放しの会議みたいになっていますけれども、それでいいかと思いますので、何かお考えがあれば出していください。

Ｈ委員はいかがですか。

○Ｈ委員　　私はそもそもスポーツクラブに従事しているので、すごく密接があるはあるのですけれども、どちらかというとシニア層の継続というところはすごく心配していると

ころであって、もちろんその方の体力だったりとか、疾病だったりとかというところの部分で、脱落ではないですが、せっかく運動を続けてきたのに、体力の問題で衰退してしまうというところが、局面としては、スポーツクラブの中であるあるなのです。

あと、物価が高騰していることで、いろいろ運動したいのだけれども、値上げがあるではないですか。どうしても払っていけないところが、将来的に割と近いところであるのかなと。その人たちが、では今度、どこで運動を続けていくのかなというところがつながることができれば、何かすごくうれしいなと思います。

一方で、特にうちのメガロスというくくりの中でですけれども、日比谷に店舗がございまして、皇居を走るランナーさんとかを取り込んで、逆にメガロスにランステーションというのをつくってしまって、ロッカーとお風呂の貸出しで走ってねみたいな。まだ私も調布に来たばかりなので、ランニングコースとか、そういったところでお手伝いができるのであれば、そういうランナーさんの支援とか、そういったところにも力を加えていけたらなと、何かもやもやっと話を聞いていました。

○会長　　ありがとうございます。計画だけでまだ実現はしていないのですけれども、味スタの横に空き地があります。大分前ですけれども、あそこに公園をつくって、ランニングコースをつくる案を答申したこともあるのです。そこのイメージは、とにかく人が集まったら、そこに走っている人がいる。テニスをやったり、遊んだり、子どもたちはドッジボールなどをして遊んでいる、そういう空間があってもいいよねという答申を出した記憶があるのです。

分かりました。では、残りの時間も限られてきますので、先に行きますけれども、よろしいですか。

（「なし」の声あり）

またありましたら、事務局に連絡したいと思います。

では、続けて議題２、新たなスポーツ施設再配置計画に関する検討についてということで、事務局の説明をよろしくお願いします。

○事務局　　私から御説明させていただきたいと思います。スライドの資料を御覧ください。

新たな調布市スポーツ施設再配置計画の策定に向けた取組についてということで、１枚めくっていただいて、左上１ページ目を御覧いただければと思います。

なぜ今、スポーツ施設の再配置計画を改めて整理するかといいますと、平成19年に策定

されて、平成20年から平成25年までを計画期間として整備した計画があったのですけれども、それが終了して10年以上がたっております。この間、京王アリーナＴＯＫＹＯが平成29年にオープンしたりとか、味スタ内のパラスポーツセンターの開業や、現在進行中の事業ですが、中央道の耐震補強工事の影響による西調布体育館の機能移転ですとか、老朽化による市民プールの在り方の検討など、環境の変化がありました。

これからというところで、今後も施設の老朽化や財政的な制約がある中、公共施設全体での最適化を進める必要性が出てきました。そこで市全体として、どこにどういった規模で、どの機能を持つスポーツ環境が必要なのかを整理することを目的として、新たなスポーツ施設再配置計画を策定することといたしました。

続いての資料を御覧ください。策定に向けた検討の全体像についてですが、計画策定には、今年度、令和８年度と令和９年度の２か年をかけて行います。令和８年度には、まず現状の把握として、施設配置とその老朽化等について、また、利用状況や稼働状況の把握と上位関連計画との整合性や社会動向について調査します。

次に、市民、学校、団体へのアンケート調査や、団体へのヒアリング、ワークショップ形式での若者との意見交換会を通じて市民ニーズを把握し、施設の需給バランスや機能のミスマッチ、施設配置や規模、さらにこれまでなかった新たなニーズなどの課題を洗い出し、整理します。

令和９年度には、今年度の調査結果を基に、施設の配置や整備方針についてコストシミュレーションを交え検討して、素案、案、計画と段階を踏んで作成していく予定です。

次、左上３ページを御覧ください。令和８年度に実施する基礎調査と意見聴取の内容について、少し詳しく説明させてもらいます。

基礎データ分析では、市が所管するスポーツ施設の配置や利用状況と、設置から経過年数がどのくらいたっているかとか、改修履歴などについて分析化して、課題を抽出いたします。

その次に、市民アンケートを行います。市民アンケートでは、住民基本台帳から市内在住の16歳以上の方を対象に、無作為抽出した約3,000人を対象に実施します。このアンケートでは、この１年間のスポーツや運動の実施頻度、行っているスポーツ、施設を利用しなかった人にはその理由などを把握して、実態や利用ニーズ、意識や意向を把握することを目的として実施いたします。

将来需要を踏まえた施設配置や機能の集約、多機能化などの方向性の検討と、利用圏域

や世代別、地域別のニーズの可視化に活用いたします。そちらと並行して、団体アンケートと学校アンケートを行います。

団体アンケートでは、団体からの要望ではなく、活動実態や行動と将来の活動見通しなどを把握することで施設の必要性や妥当性、優先度などを把握する予定です。

学校アンケートですが、こちらでは競技スポーツに限定せず、遊びや活動できる場所を一緒に考えようというような形で、放課後や休日に楽しく過ごせるまちを考えようといった内容で調査し、現状と課題、そして策定に向けた主要論点を整理する予定です。

次のスライドです。主な検討論点案ですけれども、こちらのアンケート調査の結果を基に施設の配置や機能、規模、更新や統合、新たなニーズ、他施設との関係、持続可能な運営など様々な視点を組み合わせて、全体のバランスのとれた最適な施設配置の方向性を検討していきます。

この計画策定にあたって、検討体制とスポーツ推進審議会の皆さんとの役割について御説明します。

スポーツ推進審議会の皆様には、専門的な視点に立ち、節目節目で御意見をいただきながら進めていきたいと考えております。この後、御説明させてもらうのですが、今回は特に市民アンケートの内容と、今後深めるべき論点について御意見いただきたいと考えております。

続いて、６スライド目、今後のスケジュールのイメージになります。８年度の予定ですけれども、今年度は各種アンケートを11月から開始して、若者との意見交換会を１月末頃に実施して、３月には調査結果をまとめる予定です。来年度はこの結果を基に、適宜、審議会の皆様に御意見をいただきながら、骨子案、素案、最終案とまとめていきたいと考えております。

７ページのスライドになります。計画策定までのスケジュールを含め、考え方や調査の対象、アンケート内容についてこれから説明させていただきますが、市民アンケートの内容について御意見いただければなと思っております。

スライドの資料説明は終わりになりまして、引き続き市民アンケートと団体アンケートの資料をお配りさせてもらっているのですけれども、「調布市内のスポーツ施設に関するアンケート調査のお願い」というのを御覧いただければなと思います。

今回、こちらのアンケートでは、市民のスポーツの実施状況や施設の利用実態、利用上の課題、今後のスポーツ施設に対するニーズや考え方を把握して、再配置計画の検討に積

み上げることを目的に実施するものです。

市民のスポーツ実施状況についてが問１から問３になっていまして、まず年齢や居住地域などの基本的な属性に加えて、スポーツを行う頻度や、どのような種目を行っているかを伺います。こちらによって、年代や地域などによってスポーツの実施状況やニーズにどのような違いがあるのかを把握したいと思っております。

問３の実施しているスポーツ、運動の種目の分けについては、今現在のスポーツ施設の利用区分けに沿って区分けをしております。

次に、スポーツ施設の利用実態と課題についてです。問４では、市内の各スポーツ施設について、利用頻度や認知度を確認いたします。市の施設だけではなく、学校や民間のジムですとか大学の施設、近隣自治体の施設なども含めて、市民の方々がどのような場所でスポーツを行っているのかを把握したいと思っております。

また、問５では、市内の公共スポーツ施設の利用のしやすさと、利用のしにくい場合などを回答していただいて、利用しにくい場合の理由を伺いたいと思っています。立地や交通、予約が取りにくいですとか、料金が負担になるですとか、施設の老朽化といった施設側の課題と、時間がないですとか、民間施設を利用しているといった利用者側の事情について、両面からその要因を把握したいと思っております。

次に、今後のスポーツ施設の在り方についてですけれども、問６では、身近な地域でのスポーツ環境の確保、施設の集約、複合化、学校や民間・大学施設の活用、近隣自治体との連携、老朽施設の改修・更新など、今後、市としてどのような考え方を重視して施設を配置、再編していくべきかを伺いたいと思っております。

さらに、問７ですけれども、多機能化や暑さ対策、バリアフリーなどのハード面と、各世代向けのプログラムや個人利用、予約の利便性など、ソフト面から具体的にどのような施設やサービスが求められているのかを把握したいと思っております。

問８では、自由意見という構成になっております。

こちらのアンケートを通じて、単に施設に対する要望を把握するだけでなく、誰がどこでどのようにスポーツをしているのか。現在どのような課題があるのか。将来どのようなスポーツ環境が求められているのかを把握して、今後の施設の再配置検討を進めるための基礎資料にしたいと思っております。

説明は以上になります。

○会長　　分かりました。では、最初の資料、一番最後の７ページのところ、意見をいた

だきたい事項というのはそこに書いてあります。特に③の市民アンケート、今、最後に説明があったアンケートの内容等々について御意見をと。あと20分程度で時間になるかと思いますので、その中で詰めていきたいと思います。

では、まず自由に、どこからでも構いません。御発言がある方はお願いできますか。では、どうぞ。

○C委員　皆さんが考えている間に。これ、性別とかお仕事をされているかどうかとかは、とっていいかなと思います。

○会長　属性についてのことですね。

○事務局　今はとらないと思っていたのですけれども。

○事務局　前半の議論もあると思いますので、属性のところはどのぐらいのボリュームにしようかなというのは、事務局の中でも少し議論していたので、属性とかお仕事の有無ですかね。

○C委員　ニーズが全然違うと思われたというのが１点。

２点目は、完全無作為抽出ですか。ある程度地域をばらして相関無作為にしたほうが、地域ごとの特性は出るのかなと。完全無作為にして、地域が偏らなければいいですけれども、回収率があまり高くないのかなと思って。東部とか北部とか分けて分析されるのですよね。そうすると、どのくらい分析に堪えるかなと思いながら。

○事務局　地域の偏りですよね。

○C委員　大体このようにやると、高齢者のほうがどうしても回収率が高くなるので、高齢者の意見を反映しがちなので、私たちが調査するときは、回収率を何となく想定して、逆算して、大体このぐらいで回収できたらとなって、だから若い世代を少し多めに抽出するとかもやったりはしますけれども、住民基本台帳をどこまで見られるのかがちょっと分からないので。

○事務局　調査によっては、エリアとか年代とか、その辺はある程度散らすようにということもあると思いますので、調査のやり方について考えます。

○C委員　将来、分析するときに困らないような抽出方法をと、今ぱっと見た瞬間思いました。

○会長　ありがとうございます。この「アンケート調査のお願い」の裏面を見ると、地域のバランスが分かりますね。やはり西のほうに、特に都の施設が固まってありますので、どうしてもそちらに厚くなって、東、北、南もそうかな、真ん中辺りがぽーんと抜けてし

まっているという特徴があります。

○Ｃ委員　　地域ごとの意見、性別とかお仕事のスタイルとかで意見が大分違うかなと思うと、それが分析できるほうが後々生かしやすいかなと思いました。

○会長　　調査設計が10月、11月だともう２か月弱しかありませんので、その辺のところも考えて、後々の使い勝手は職、地域、年代のバランスがとれたような回収ができるほうが、資料としては信頼性が当然高まるだろうということで、あとは経費との関係もあるのだと思いますけれども。どうぞ。

○Ｄ委員　　調布市の公共のスポーツ施設マップということがあったのですけれども、先ほど私もちょっと話したのですが、これ、多分ですけれども、小・中学校の体育館が入ってないので、入れないと多分回答が出てこない気がするのです。

調布市の公共スポーツ施設マップに、小学校の体育館とかグラウンドを入れないと、しているけれども、どこへ行っていますかというときに、チェックがつかない人が出てきてしまうのかなという気がするのです。それだけ学校開放でやっている方が多数いると思うので、そこら辺は目的が違うのかもしれないすけれども、どこを使っているとなると、もし入れるのだったら、それを入れたほうがいいのかなという気はします。

○会長　　ありがとうございます。どうぞ。

○事務局　　問４のところで、身近な公園や学校の運動場、体育館となっているけれども、地域の各学校の体育館のエリアを入れておかないと、地域バランスが分からないよと。そんなことですか。

○Ｄ委員　　お住まいの町名について書いてあるので、これとクロスにするのかなと。もしやるとなったら、調布市の市民の方で相当な数がいるような気がするのです。

○会長　　アンケートの問４、その他のところが、今29の身近な公園や学校の運動場、体育館、ここをもう少し細かく。公園と学校を一緒にしないほうがいいような気もしますけれども。

○事務局　　ありがとうございます。

○会長　　どうぞ。

○Ａ委員　　単純な質問です。3,000名対象ということですけれども、これは3,000名に出すのか、3,000集めるのか、集まるまでやるのか。

○事務局　　まず3,000件発送します。正確に言うと、宛名不明という場合もあるので、3,000プラスアルファです。アンケートというのは、標本誤差といって、母体に対して真

の値と実際の調査で持ってきたときにどのぐらい誤差がありますかというのがあって、５％以内に収まればいいと言われていて、例えばスポーツ推進計画を策定する際に作ったアンケートだと、3,000のうち1,000のサンプルが来ました。それだと標本誤差が３％とか、すごく高い信頼度になっているのです。

というところも逆算しつつ、５％というのは600ぐらい回収すればできるのですけれども、過去のうちのアンケートを見ると、1,000ぐらいの回収はありますというところも逆算していく中では、市のいろいろなアンケートなどについても3,000でやっていますので、今回はそれを踏襲して、3,000サンプルということで設定しています。

○会長　　よろしいですか。3,000集めるのではなくて、3,000にお願いして、目標1,000ぐらいは集まるだろうという予測ですね……

○Ａ委員　　ただ、今回のアンケートは３つぐらいのグループ分けになるアンケートと違って、幾つかのグループに分かれてくるのかなというのがあって、そうすると、あまり数が少ないと、真の調査結果がなかなか得られないかなと。

要するに、住んでいる地域によっても特徴が全然違いますし、年齢によっても特徴が全然違いますし、いろいろなファクターが入ってくるから、ただ単にスポーツは好きですか、嫌いですかというアンケートだったらいいと思うのですけれども、そうではないので、数的に心配なところはあるかなという気がしました。

○会長　　もう少しボリュームを大きくしたほうがいいのではないかと。

○事務局　　我々としては有効回答数を上げるために、督促などもしたり、ウェブでも回答できるようにしたり、サンプル数を多くするような努力はしていきたいと思います。もともとの母数を上げるというのは予算も絡んでいきますので、今の意見を踏まえて、どれだけ集められるかというのは工夫していきたいと思っています。

○会長　　ほかはいかがですか。――では、アンケートの用紙のほうにも今入っていますので、全体に対しての御意見とか御質問とかありましたら、お願いします。

○Ｃ委員　　皆さんが考えている間に。問４の施設の利用頻度は、こんなに細かくとる必要があるのかがちょっと何か。どんな分析に使うのだろうと思っていて、例えば小さいゲートボール場と味の素スタジアムを比べたら、味の素スタジアムのほうが年に一遍ぐらいは行っているだろうし、認知度は物すごく高い、それは比較できないかなと思っています。

利用者数であれば、それぞれの施設さんがもう既に把握されているのかなと思っていて、その地域の人しか使わないような小さいところの認知度を調布市全体で聞く理由はどのく

らいあるのだろうか。私は北部のゲートボール場を知らないです。でも、認知度が低いから駄目というわけではないと思うのです。これ、後々分析を考えたときに、どのようにお使いになるのかしらというのが不思議な感じがしました。

○会長　　いかがですか。何かございますか。

○事務局　　市の事務報告で、各施設の延べ利用者数は公表しています。ただ、全ゲートボール場の利用者数は、申込による管理をしていないため、正確な人数は拾えないので、こういうもので実態を拾う意味があるのかなということと、利用者数については延べ数なので、その人が何回も行っている可能性もあるので、施設の延べ利用者数に焦点を当てたというか、その人の行動に焦点を当ていたという意味でとる意味があるのかなと思いつつも、施設の認知度のところというのは、使い方といいますか、結論に結びつくところはもう少し考えたいと思います。

○Ｃ委員　　先ほどの3,000で大丈夫かという議論に戻ってしまうのですけれども、小さいところは、その地域の人しか使わないで、しかも高齢者、年配の人しか使わないであろうみたいなところに、たまたま70歳以上で、その地域に住んでいる人に行って、その人が回答してくれて、「知っている」と答えてというと、ぱっと見た感じは、さっきの標本誤差がめちゃくちゃ大きくなる指標なのです。それをこんなに精緻にとる。それが計画にどのように反映していくと――調査設計的に結構厳しいかなと思っていて、誰も知らないから、これは要らないという議論にならないように本当に気をつけないといけないと思いました。誰も使ってない、誰も知らない、それはたまたまである可能性は高い。ちょっと怖いです。

○会長　　ゲートボールとして使ってないことのほうが多いような気もしますね。

○Ｃ委員　　例えばでゲートボールを挙げてしまったのですけれども。

○会長　　これだけ質問があると、答える側も大変ですね。それで、何のために使うのかということは、確かに調査においては大切な視点になりますので。

○Ｃ委員　　であれば、もうちょっと違うようにして、もうちょっと属性を手厚くとって、私だったら問３で、どこでやっているを聞いたほうが、もしかしたらいいのかもしれないとむしろ思いました。問４は、後になってほとんど使えないではないかとなる懸念があるのであれば、先ほど言った公的なところなのか、公園なのか、学校なのかぐらいにしておいても、問３のどこでやっているとは何、民間でやっている方がすごく多い。調布は民間施設がすごく多いと思っていて、そっちでやっている人が多いのではないか。そういう実

態がこれだと分からないのです。

○Ａ委員　　今聞いていて、私も思います。３と結びつけたほうが、後々分析がつながるのではないかと思います。

○会長　　問４については、もう少し大まかな、地元の学校とか公園、あるいはスポーツ施設とか、それぐらいのほうが後々の処理はとりやすいかもしれませんよね。

この１点にかけてしまうと時間がなくなってしまいますので、ほかのところも含めて御意見いただきたいと思います。では、お願いします。

○副会長　　今の話とは逆に、問５の「利用しやすいと感じますか」は、どこのことを思ってかというのは分からない。３と４と５は、３で何をやるときに、どこでやっていて、そこの場所が利用しやすいのかどうかというのをセットにしないと、なかなか答えようがないかもしれないです。

あと、回収率を上げようと思ったら、ぱっと見て、すごく大変だと思ったら絶対下がってしまうので、ここも大事なところかなと思います。

○会長　　アンケートをとるほうとすれば全て聞きたいので、どんどんボリュームが大きくなってくるのですけれども、答える側は大変かもしれません。

ほかはいかがですか。今、３番、４番、５番については、一連で答えられるように工夫があったほうがいいのではないかという御意見かと思います。

では、私がちょっと気になった、問５の11、12、13、14がここにあることが、何かちょっと違和感があったのです。皆さん何もなければ、それは構わないのですが。私の個人的な感覚なのですけれども。「しにくいと感じる」、ちょっと世界が違うかなと思ったところでした。

あと、分類がほかのところで使っているということなのですけれども、ウォーキング、ジョギング、ここにはランニングという言葉が入っていないのです。ランニングとジョギングとは世界が全く違うので、ランニングしている方は、私はどこを答えるのだと悩まれるかなと感じてはいました。

もう一点、団体のアンケートの質問もありますので、そちらのほうも御覧ください。何か気がついたら御発言をお願いします。団体の２ページの設問１のところ、学校施設、体育館、校庭など、ここにテニスコートも入ってもいいのかなと感じました。それが１点。

それから、設問３、近隣に活動できる施設が不足している。この近隣というのは、市内なのか、市外なのか、あるいは両方を含めるのか、これがちょっと不明確かなという感じ。

それから、その右側の予約者多数によるは、予約希望者のことかなと思いました。

それから、ほかのところも出てくるので、要らないかもしれませんけれども、今言ったのが、使いにくいので確保できてないのところです。

それから、３ページに行って、設問５の右側４つ目、救護用の設備（ＡＥＤ設置など）というところで、もう少し具体的に、熱中症だとアイスバス、それから体育館などですと製氷機といったものも入れておけば、熱中症というのは、一番最初に出ていたものに関しては必要かなと思いました。

それから、設問10と11は、丸付け欄がないけれども、いいのかなと見ていて思いました。

それから、これは設問には全く関係ないのですけれども、なぜ早朝に開けないのかと。シルバー人材センターなどにお願いすれば、朝に強いお年寄りが結構いらっしゃる。地域住民から苦情が来る可能性があるので、全ては開けられないと思いますけれども、そういったことも考えてもいいのかなと。海外などですと、プールなどについては、日曜日だと逆に朝早く開けるところもあると。そのような話も聞いていますので、朝９時というように固定観念に考えなくてもいいのかなと思ったりはしていました。

それから、設問10の下から４段目、競技団体・部活動に入らなくても参加できる緩やかなコミュニティ。ここはスポーツコミュニティと言いたいのか、ただコミュニティだけでいいのか、そこも疑問に思ったところです。

勝手に言いましたけれども、皆さんいかがですか。残された時間はあまりないのですけれども、御発言いただければ。どうぞ。

○Ｃ委員　　設問10です。何で若者に特出しして聞いているのでしょうか。私が経緯を分かっていないので。先ほど、働く世代とかも実施率が低いとお伺いしたので。

○事務局　　調布市において、若者応援条例という条例をつくっておりまして、若者の活動の環境を応援していくと。スポーツにおいても、どうしたら若者のニーズをちゃんと拾って、若者が活動しやすいような環境を整えていけるかというのを考えていきたいと思う中で、このアンケートのほかにも、実は若者と意見交換とかもやっていくのですけれども、各団体さんにおいて、こういったところでどのように考えますかということは、ヒントとして聞いておきたいなといってやっています。

○Ｃ委員　　理由が分かれば結構です。

○会長　　ほかはいかがですか。Ｅ委員は競技団体の代表として何かございませんか。

○Ｅ委員　　この団体アンケートは、私の場合では、調布市卓球連盟として出すのではな

く、調布市卓球連盟に所属している各クラブチームにアンケートが来るということですか。この団体の大きさというか。

○事務局　　スポーツ協会と相談はしておりますけれども、今のイメージは、かなり多くなるので、各競技連盟にお願いするという今のところのイメージではあります。

○会長　　続いて、H委員はいかがですか。

○H委員　　難しいところではあるのですけれども、皆さんと同じ御意見でございます。難しいですよね。私もアンケートたまに作るのですけれども。

○C委員　　アンケートから離れた今後の進め方の５のところでよろしいですか。こちらの取組についての５ページ目の最後、もう時間ないと思うので。庁内の作業部会をおつくりになられるということなのですが、関係課というのはどの辺を想定されているのかなというのを後で教えていくださいというので、私は高齢者推進の協議会と健康づくり協議会の委員を両方やっているのです。特に両方とも、運動・スポーツの推進みたいなのを計画に掲げているのですけれども、横の連携がなくて、いつももったいないなと思って聞いています。健康・食育プランみたいなものもありますけれども、そこにも週２なのですが、運動・スポーツする人を増やしましょうというのとかも入っていて、そっちはそっちで健康づくりだけで議論されていて、こういうところに横串を刺して、みんなで調布市の運動・スポーツをどうやって上げていけばいいのみたいなのをやられたらいいのになと思いました。

以上です。

○会長　　何か……はい。

○事務局　　スポーツ推進計画の検討の際には、健康部門とか学校とかいろいろな部署に入っていただいて検討した経過があります。今回、スポーツ施設の再配置と。施設をどうしていきますというところが主眼になっていて、今考えているのは、スポーツ振興課とファシリティマネジメント課というところがありまして、そこと少し連携しながら、この中身を整えていきたいと考えています。

○C委員　　ハード部門ということですよね。

○事務局　　ハードです。

○C委員　　例えば、高齢者の方たちも運動をどこでするの、介護予防をどうするのみたいなのはめちゃくちゃ盛り上がるのですけれども、そういうときに施設の問題が出てくるので、やはり意見を聞いたりとか、健康づくりとか、高齢とか、あと子どももそうかもし

れないですけれども、ちょっと意見を聞かれるといいかなと思います。

○事務局　　ありがとうございます。

○会長　　では、御意見をいただいたということで。ほかはいいですか。Ｄ委員はありますか。

○Ｄ委員　　いや、ないです。

○会長　　Ｇ委員は。

○Ｇ委員　　根本なところで、私は学校の教員なのですけれども、部活が文化部と運動部に分けると半々、16ずつあるわけです。何で文化部の生徒があんなに多いのかと考えると、運動に意味を見出していない子が結構いるのです。だから、スポーツを推進するというのであれば、運動するとこういうメリットがあるよというアプローチの仕方をして、そういう人たちへの働きかけがあると、結局はスポーツ推進につながったり、健康長寿につながったりというような気がするのです。そういう視点を、たしかずっと前のこの会議でお話はあったと思うのですけれども、だんだん施設のほうになってしまうと、そういう人に目が向かなくなってしまう気がいたします。

○会長　　やはり動くのは人なのだから、人をどう攻めていくかと。

○Ｇ委員　　そうですね。

○会長　　ありがとうございます。Ｆ委員はいかがですか。

○Ｆ委員　　団体のアンケートで競技団体というのがあったと思うのですけれども、自分は競技団体に所属しているので、こういうアンケートになると、大会を想定して答えるのか、それとも日常で使う施設として答えるのか、どちらなのかなというところがあると思うのですが、競技団体になると、大会で利用するにアンケートとして答えるところもあるのかなと感じたところにはなります。

○事務局　　意味合いとしては、日常の利用に際して各団体がどうかというのを統括しているところの把握の中でという意図なのですけれども、それがリード文も含めてどう伝わるかというのは考えてできればいいのかなと思いました。

○会長　　ありがとうございました。団体アンケートの１ページ目の一番上の四角の中、リード文について、もう少し意図が明確に伝わるように、大会のためではないのだということが大事だろうということですので、よろしくお願いしたいと思います。

いかがですか。――ここだけで全て完結で、今日ので終わってはいないかと思いますけれども、ここはどうしましょう。各委員から何かお気づきのところがあれば、メール等々

で１週間ぐらいの余裕で連絡を入れていただく？

○事務局　　１週間の余裕は作業的になかなかあれなのですけれども、ここ二、三日ぐらいでメールさせていただきます。少し短めですが、ある程度期限を切らせていただいて、ほかにお気づきの点があれば事務局にいただいて、それら全体的に含めてこのアンケートの改善を考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○会長　　分かりました。今日は火曜日です。水、木、金、今週中に修正案を含めて何か御意見があればということだそうです。よろしいですか。

予定の時間をちょっとオーバーしていますけれども、よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

ありがとうございます。

では、時間になりましたので、事務局から次回も含めて連絡等をよろしくお願いいたします。

○事務局　　そうしましたら、今日は貴重な御意見を様々な観点からいただきまして、ありがとうございました。

今後の予定のところに関してなのですけれども、審議会を今年度中にもう一度開くかどうかというところは、今のところ検討していないところであります。特に再配置の計画については、来年度以降が大きな動きになっていきますので、そちらのときにはまた審議会を開かせていただいて、何度か御議論いただこうかなと今のところ思っておりますので、その前提で御認識いただければありがたいと思っております。

今日は本当に貴重な時間の中で、いろいろと御意見をいただきまして、ありがとうございました。反映できるところは活用させていただこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長　　ありがとうございました。

では、今日最後のまとめは、副会長、大変ですけれども、実は副会長とは８月末から９月３日までしたか、北海道で体育・スポーツ・健康学会が３日間あって、そこでたまたま御一緒させていただいた。

まとめをよろしくお願いします。

○副会長　　すごく難しいたすきを受けたような気がします。大分秋らしくなってきたのですけれども、皆さん、子どものときの運動会を覚えていらっしゃいますか。自分のことになりますけれども、私はもう40年以上前になるのですけれども、うちの小学校は、春に

運動会があって、秋に大運動会があったのです。春は紅白で戦って、秋は青、黄色、緑、桃色の４チームで戦って、秋は大運動会と言っていた。

それは割と普通のことかと思っていたのですが、２回もやるのというのを後々言われて、それは普通ではなかったのだなと。今、小学校の運動会は、なくなってはいないのでしょうけれども、だんだん縮小というのを聞いて、例えば高学年と低学年で校庭に出る時間を分けてやるとか、父兄は誰でも自由に入れるということではない。昔はおじいちゃん、おばあちゃんまで校庭で見ていたりしていたので、その状況ではないというのを聞くと、すごく寂しいなと思ったりしています。

企業の運動会なども一時はだんだんなくなって、少し復活の傾向があると聞いているのですけれども、そのやり方は、例えば運動会なので、昔だと走るというのが花形で、速いとか力比べみたいなものが多かったのが、今は家族も一緒に参加できるようなレクリエーション的な内容にだんだん変わっていると聞いています。内容が変わるということは別に悪いことではないのですけれども、令和的なやり方になっていると。

問題は、学校の先生も、昔はなかった大変なことがいっぱい増えているということがあると思うのですけれども、イベントがそもそも犠牲になってなくなっていくというのはすごく寂しいことだなと思います。これは大学などでもそういうことが往々にあったりする。

それを補うわけではないのですけれども、学校だけの話ではないので、運動会で言えば地域運動会ですし、割と冒頭にＧ委員が言われた、在宅でもできるような、それこそコロナのときを思い出すと、うちの電通大も門が半年閉まりましたから、その間も授業はやれというわけです。オンデマンドの教材を作ってやったりしたのですけれども、その中で体育はどうするかと。オンデマンドの教材といっても、この動画を見て、それを自分でやって、やった実施記録を提出しなさいと。あるいは、オリジナルで動画を作ってというようなこともあったりしたのです。

特に高齢者で、今日は施設の話がありましたけれども、運動施設まで行ってやる人はいいのですが、そこまで行くのはおっくうで、そういう人は運動をしないでいいのかというと、そうではなくて、在宅で、家の中でもできるようなもの、例えば調布市体操とか、調布市の名物になるような体操があったらいいのではないかと。コロナのときを思い出すと、ラジオ体操は意外と学生にも受けがよくて、ラジオ体操、もしくは類似の体操で調べていくと、自衛隊体操というのがあるのです。結構激しいのです。陸上自衛隊とか海上自衛隊とかあって、幾つか種類がある。その調布版みたいなのがあるといいなと思いました。

以上です。どうもありがとうございました。

○会長　　お疲れ様でした。ありがとうございました。

――了――